

環境経営活動レポート

26期 令和5年10月1日～令和6年9月30日



令和7年2月6日 作成



【環境活動レポート 目次】

1	環 境 経 営 方 針	P. 3
2	事 業 活 動 の 概 要	P. 4
3	事 業 規 模 及 び 事 業 内 容	P. 4
4	環 境 実 績 と そ の 目 標	P. 7
5	環 境 活 動 計 画 の 内 容	P. 8
6	環 境 活 動 取 組 の 結 果 と 評 価	P. 9
7	環 境 関 係 法 規 の 取 り ま と め	P. 16
8	法 規 等 遵 守 の 方 法	P. 16
9	環 境 関 連 法 規 へ の 違 反 、 訴 訟 等 の 有 無	P. 16
10	環 境 上 の 緊 急 事 態 へ の 想 定 と 対 応 策	P. 17
11	フ ロ ー チ ャ ー ト	P. 18
12	組 織 図	P. 19
13	代 表 者 に よ る 全 体 の 評 価 と 見 直 し	P. 20

1 環境経営方針

・スローガン

未来を生きる次世代へ、私達は地球環境保全活動に努めます

・環境理念

株式会社タカセキ富山は産業廃棄物処理業者として産業廃棄物の適正処理を行うと共に、地球規模までの環境問題に対応するため、環境経営に徹しPDCA（Plan・Do・Check・Act）を推進して、継続的改善を行います。基本事業の鉄リサイクルにも貢献し努めます。

・重点取組事項

1. トラック運搬の効率化などで二酸化炭素排出量の削減に努めます。
2. 廃棄物の適正処理及び再資源化に努めます。
3. 上水道の使用量の削減を図ります。
4. 油処理の適正化に努め、施設による振動・騒音の軽減に努めます。

- ・ 関連する環境の法規制を遵守します。
- ・ 地元の町内会長と町内行事等の協議して環境保全して行きます。
- ・ この方針は全従業員に周知すると共に社会に公表します。

2005年 4月20日 制定
2014年 11月 4日 改訂
2024年 11月29日 改訂

株式会社 タカセキ富山

代表取締役社長 釣谷誠二

取組の対象組織・活動

2 事業活動の概要

- ① 事業者名及び代表者名
 事業社名：株式会社 タカセキ富山
 代表者名：代表取締役 釣谷 誠二
- ② 所在地
 〒939-0305 富山県射水市鷺塚216番地

3 事業規模及び事業内容

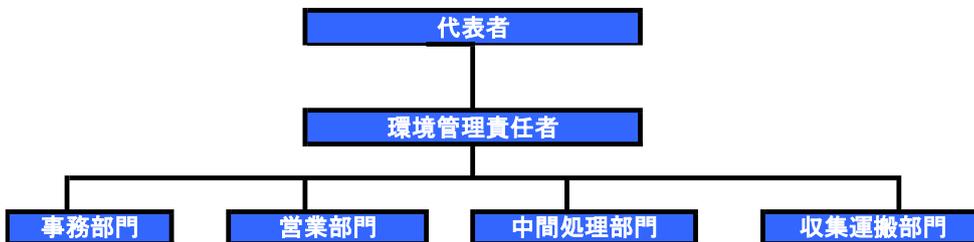
① 事業規模

創業年月	昭和10年1月
設立年月	平成11年2月
資本金	1,000万円
売上高	1,100百万円
社員数	15名
敷地面積	8,600 m ²

② 会社沿革

昭和10年1月	高橋関太郎商店を設立
昭和22年6月	株式会社高橋関太郎商店に改組
昭和46年5月	株式会社高関富山支店開設
昭和61年6月	関東シュレッダー(株)と合併し 株式会社タカセキとなる
平成11年2月	分社独立し、株式会社 タカセキ富山となる

③ エコアクション21 取組組織図



	役割・責任・権限
代表者	環境経営に関する統括責任
	環境方針の策定・見直し
	活動全体の評価と見直し
	環境管理者の任命
	活動に必要な経営資源の確保
環境管理責任者	環境経営活動システムの構築、運用、管理
	環境経営における活動目標、活動計画の策定、運用、管理
	組織に対する環境経営活動の周知徹底
	環境経営における活動結果のとりまとめ
	関連法規の順守に関する確認、見直し
各実施部門	目標、計画に基づく各活動への参加、実施

④ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名

株式会社 タカセキ富山
富山県射水市鷺塚216番地

活動対象

製鉄原料の回収・加工処理・卸売業、産業廃棄物の収集運搬及び
中間処理業、古紙リサイクル業、フロン回収業、計量証明事業(質量)

⑤ 事業内容

弊社は製鉄原料の卸売業、自社で廃金属製品を破砕機でせん断し
製鋼原料として製鋼メーカーへ納入することを主体に営業しています。
また、廃金属製品に付帯する産業廃棄物の中間処理業も行っています。

1. 製鋼原料卸売業(鉄・非鉄金属リサイクル業)
2. 製鋼原料及び之に関連する諸工業用品の売買
3. 産業廃棄物の中間再生処理業
4. 産業廃棄物の収集運搬
5. 製鋼原料及び洋品雑貨類の代理業並びに問屋業
6. 計量証明事業(質量)
7. 第1種フロン類充填回収業

処理施設

破砕施設 能力 1250 t ギロチン 240.0 t / 日 (8時間)
能力 リフティングマグネット 90.0 t / 日 (8時間)

運搬車輛 UNIC車 10 t 車 1両 7 t 車 1両
HIAB車 7 t 車 1両 10 t 車 3両

処理実績 収集運搬量 12,570 t
中間処理量 19,574 t

⑥ 許認可内容

廃棄物の処分及び清掃に関する法律

- ・ 産業廃棄物処分業許可(中間処理業(破砕・選別))(富山県)
廃棄物の種類(廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、
金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)
許可番号 01626061080 許可年月日 令和 6年 4月27日
有効年月日 令和11年 4月26日
- ・ 産業廃棄物収集運搬業許可(富山県)
廃棄物の種類(廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、
金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類)
許可番号 01606061080 許可年月日 令和 6年 6月 9日
有効年月日 令和11年 6月 8日
- ・ 産業廃棄物収集運搬業許可(新潟県)
廃棄物の種類(廃プラスチック類、紙くず、木くず、ゴムくず、金属くず、
ガラス・コンクリート・陶磁器くず)
許可番号 01509061080 許可年月日 令和 6年 6月 3日
有効年月日 令和11年 5月27日
- ・ 産業廃棄物収集運搬業許可(石川県)
廃棄物の種類(廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、
金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類)
許可番号 01703061080 許可年月日 令和 6年 2月27日
有効年月日 令和11年 2月26日
- ・ 一般廃棄物収集運搬業許可(射水市)
廃棄物の種類(廃プラスチック類、木くず、金属くず)
許可番号 射環許可第 5-18号 許可年月日 令和 5年 3月22日
有効年月日 令和 7年 3月31日

使用済自動車の再資源化等に関する法律

- ・ 引取業者登録
登録番号 20161000260 登録年月日 令和 4年12月12日
有効年月日 令和 9年12月11日
- ・ 破碎業許可
許可番号 20164000260 許可年月日 令和 6年 7月 1日
有効年月日 令和11年 6月30日

その他許認可

- ・ 解体工事業登録 (富山県)
富山県知事登録-28 第8号 登録年月日 令和 4年 3月18日
有効年月日 令和 9年 3月17日
- ・ 解体工事業登録 (新潟県)
新潟県知事 (解登-4) 第18号 登録年月日 令和 4年 8月23日
有効年月日 令和 9年 8月23日
- ・ 計量証明事業登録 (富山県)
登録番号 第 522号 登録年月日 平成 5年11月 1日
- ・ 古物商許可
許可番号 501200007829 交付年月日 平成11年 7月28日
- ・ 使用済金属類営業許可 (岐阜県)
許可番号 531230014 登録年月日 令和 5年11月25日
有効年月日 令和10年11月24日
- ・ 第一種フロン類充填回収業者の登録 (富山県)
登録番号 169A054301 登録年月日 令和 2年 3月18日
有効年月日 令和 7年 3月18日

⑦ 廃棄物の処理料金

廃棄物の種類、性状、数量、発生状況等によって
その都度見積いたします。

4 環境経営目標とその実績

○ 重点活動目標

- ・ 処理量あたりの二酸化炭素排出量削減
- ・ 処理量あたりの産業廃棄物排出量削減活動
- ・ 水使用量削減

活動項目は上記3項目とし各目標値は下表に示す値とする

活動項目	単位	維持目標	26期実績	27期目標	28期目標
処理量あたり 二酸化炭素排出量	kg-CO2 / 千 t	16,232	15,317	16,232	16,232
処理量あたり 産業廃棄物排出量	kg / 千 t	13,653	8,658	13,653	13,653
上水使用量	m ³	600	257	600	600
処理量	t	—	19,574	—	—

※26期の二酸化炭素総排出量 315,115 kg-CO2/年

環境活動内容	計画	実施内容
油水分離槽の適正処理	実施	週2回の巡回点検と定期清掃の実施
振動・騒音の低減	実施	定期測定による現状把握と教育の実施

※CO2排出量の計算には環境省公表 電気事業者別排出係数（北陸電力：0.480 kg -CO2/kwh）を使用
 ※化学物質の使用はありません

5 環境経営活動計画の内容

・環境活動計画の目標

26期(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

項目	環境目標項目	活動内容	担当者	日程													
				10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
一般教育	環境に対する自覚を高める	エコアクション教育活動計画	長谷		○					○							
二酸化炭素排出量	電力の処理量あたりの電力使用量の削減 ※(年間累計13,957kwh/千t)	空調機の温度設定管理計画	長谷	←						毎月1回	→						
		工場の設備改善計画	油谷	←						随時	→						
		購入電力量の管理計画	長谷	←						毎月1回	→						
	軽油使用量	軽油の処理量あたりの軽油使用量の削減(年間累計2,569ℓ千/t)	エコドライブ教育	高木正水	←						毎月1回	→					
自主点検整備の確認			高木	←						随時	→						
産業廃棄物	産業廃棄物の処理量あたりの廃棄物排出量の削減	分類別選別の徹底排出量の管理	糀谷石田	←						毎月1回	→						
		マニフェスト管理	石田	←						毎月1回	→						
上水道	上水道の水資源投入量の管理改善	使用水量の管理	長谷	○		○		○		○		○		○			
		集埃車の活用	糀谷	←						随時	→						
油水分離槽	油処理適正化維持管理	定期清掃	糀谷						○								
		巡回点検	週番者	←						毎週2回	→						
騒音・振動	騒音・振動の低減測定による現状把握	定期測定	長谷													○	
		オペレーター教育	長谷		○					○							

・関連重要活動項目

項目	環境目標項目	活動内容	担当者	日程													
				10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
環境上の緊急事態	緊急時の対応策連絡先の確認	緊急時訓練教育	長谷													○	
		消火設備の維持管理	長谷														○
		危険予知活動教育	長谷	←						毎週1回	→						

重点活動目標

環境活動目標項目	活動内容	担当者	日程												
			10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
処理量あたりの二酸化炭素排出量削減活動	施設稼働管理とエコドライブ及び車両の燃費管理	高木正水	←						毎月1回	→					
処理量あたりの産業廃棄物排出量削減活動	ゴミ付着の少ない金属回収を目指す	石田正水	←						毎月1回	→					
水使用量削減	節水の徹底(表示および啓蒙)	長谷糀谷	←						維持	→					

作成日 令和5年10月02日

二酸化炭素排出量の削減

I 処理量あたりの二酸化炭素排出量の取組内容と目標設定

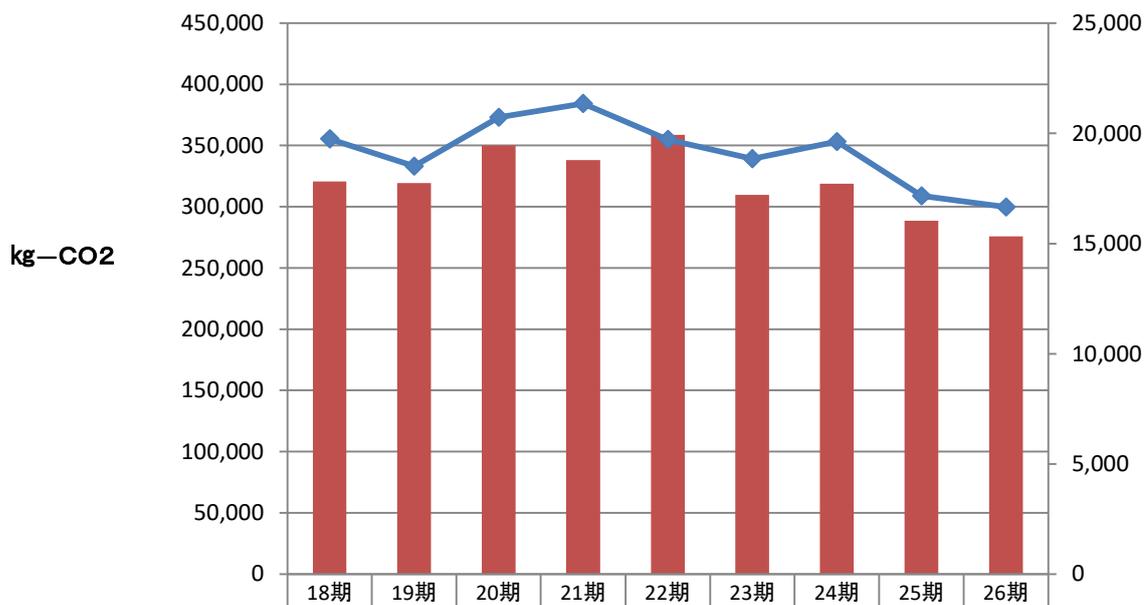
計画内容	目標
電力使用量、軽油使用量の項目に準ずる	処理量あたりの二酸化炭素排出量を16,232kg-CO2以内にする。

活動結果一覧

目標項目	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 目標	26期 実績	目標対比
処理量あたり 二酸化炭素排出量	kg-CO2 / 千 t	17,200	17,714	16,027	16,232	15,317	94.4%

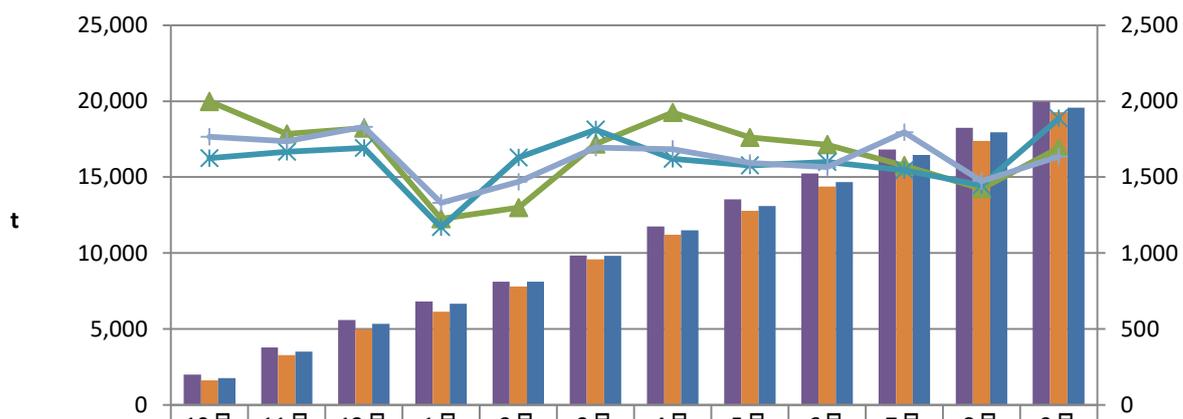
目標項目	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 実績	前年24期対比
処理量	t	19,723	19,937	19,273	19,574	101.6%
二酸化炭素排出量	kg-CO2	339,249	353,157	308,891	299,818	97.1%

二酸化炭素排出量と処理量あたりの二酸化炭素排出量



■ 処理量あたりの二酸化炭素排出量	17,809	17,747	19,443	18,787	19,931	17,200	17,714	16,027	15,317
◆ 二酸化炭素排出量	355,412	333,136	373,124	384,357	354,929	339,249	353,157	308,891	299,818

処理量の推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■ 24期処理量累計 t	1,999	3,784	5,606	6,831	8,129	9,846	11,772	13,533	15,246	16,822	18,246	19,938
■ 25期処理量累計 t	1,625	3,292	4,985	6,155	7,784	9,597	11,218	12,796	14,396	15,941	17,388	19,275
■ 26期処理量累計 t	1,765	3,502	5,333	6,664	8,132	9,827	11,512	13,105	14,671	16,465	17,940	19,574
▲ 24期処理量 t	1,999	1,785	1,822	1,225	1,298	1,717	1,926	1,761	1,713	1,576	1,424	1,692
✳ 25期処理量 t	1,625	1,667	1,693	1,170	1,629	1,813	1,621	1,578	1,600	1,545	1,447	1,887
+ 26期処理量 t	1,765	1,737	1,831	1,331	1,468	1,695	1,685	1,593	1,566	1,794	1,475	1,634

※評価

26期の総二酸化炭素排出量は299,818kg-CO₂となった。
前年比94.4%の結果であるが、CO₂排出量の算定に用いる係数変更によるもの。

II 処理量あたりの電力使用量の取組内容と目標設定

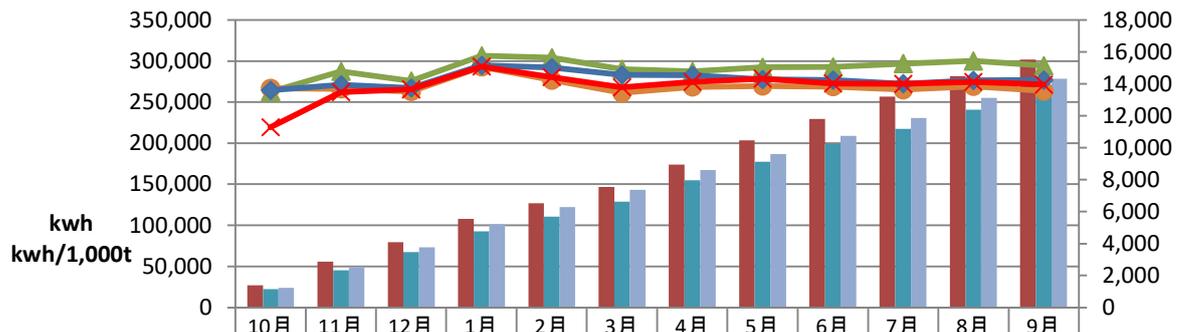
活動計画	計画内容	目標
空調機の温度設定管理	空調機の温度 夏:28℃ 冬:20℃	処理量あたりの電力使用量を年間累計13.957kwh/千t以内にする
工場動力設備改善	設備の保守・点検・整備・修理での性能改善	
電力量の管理	長期休暇時にキュービクルの電源遮断 油圧モーターの負荷軽減	

活動結果一覧

目標項目	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 目標	26期 実績	目標対比
処理量あたり 電力使用量	kwh / 千t	14,137	15,137	13,569	13,957	14,232	102.0%

	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 実績	前期 対比
処理量	t	19,723	19,937	19,273	19,574	101.6%
電力使用量	kwh	278,818	301,773	261,529	278,578	106.5%

電力使用量と 処理量あたりの電力使用量の推移



24期使用量累計 kwh	26,982	55,950	79,468	107,67	127,16	146,78	173,96	203,56	229,66	256,76	281,57	301,77
25期使用量累計 kwh	22,300	45,066	67,367	92,714	110,76	128,95	154,79	177,45	198,93	217,37	240,64	261,52
26期使用量累計 kwh	24,004	48,786	73,343	101,00	122,18	143,01	167,28	186,99	208,78	230,70	255,11	278,57
24期処理量あたり kwh/千t	13,498	14,786	14,176	15,764	15,644	14,909	14,779	15,043	15,065	15,264	15,433	15,137
25期処理量あたり kwh/千t	13,723	13,691	13,516	15,065	14,231	13,438	13,799	13,869	13,819	13,637	13,841	13,569
26期処理量あたり kwh/千t	13,603	13,933	13,754	15,159	15,027	14,554	14,533	14,270	14,231	14,012	14,220	14,232
26期処理量あたり目標	11,282	13,481	13,649	15,087	14,431	13,781	14,126	14,339	14,022	13,992	14,121	13,957

※評価

電力使用量は278,578kwhとなり、前年対比106.5%の増加。
 処理量あたりの電力使用量は14,232kwh/千tで、目標対比で102.0%となった。
 本結果より、生産性は向上できているに対し、設備負荷の要因であったり、季節要因等の影響により電力使用量が増加したものと考えられる。

Ⅲ 処理量あたりの軽油使用量の取組内容と目標設定

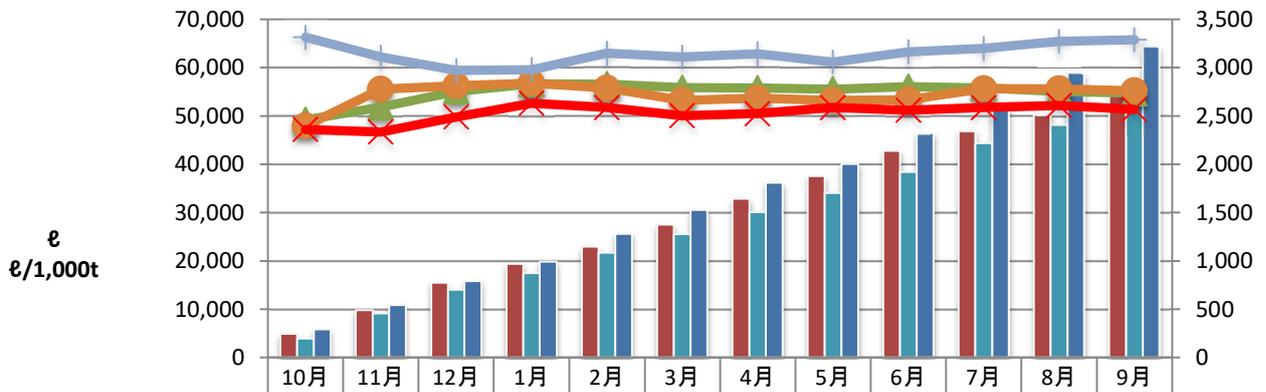
活動計画	計画内容	目標
エコドライブの実施	エコドライブ宣言(ACT1～ACT10)の実施	処理量あたりの軽油使用量を2,569ℓ/千t以下に抑える
車輛の自主点検・整備の実施	車輛の点検・整備	月1回集計

活動結果一覧

目標項目	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 目標	26期 実績	目標対比
処理量あたり 軽油使用量	ℓ / 千t	2,766	2,736	2,762	2,569	3,289	128.0%

	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 実績	前期 対比
処理量	t	19,723	19,937	19,274	19,574	101.6%
軽油使用量	ℓ	54,559	54,550	53,225	64,380	121.0%
自社車輛走行距離	km	122,749	125,812	104,173	120,099	115.3%
自社車輛軽油使用量	ℓ	42,304	41,791	37,634	43,597	115.8%
自社車輛燃費	km/ℓ	2.902	3.011	2.768	2.755	99.5%

軽油使用量と処理量あたりの軽油使用量の推移



24期使用量累計 ℓ	4,915	9,802	15,450	19,357	22,997	27,495	32,852	37,597	42,779	46,906	50,279	54,550
25期使用量累計 ℓ	3,899	9,146	14,032	17,486	21,706	25,543	30,111	34,054	38,440	44,352	48,348	53,225
26期使用量累計 ℓ	5,849	10,893	15,845	19,857	25,621	30,568	36,182	40,102	46,453	52,684	58,754	64,380
24期処理量あたり ℓ/千t	2,459	2,590	2,756	2,834	2,829	2,793	2,791	2,778	2,806	2,789	2,756	2,736
25期処理量あたり ℓ/千t	2,399	2,778	2,815	2,841	2,789	2,662	2,684	2,661	2,670	2,782	2,781	2,762
26期処理量あたり ℓ/千t	3,315	3,111	2,971	2,980	3,151	3,111	3,143	3,060	3,166	3,200	3,275	3,289
26期処理量あたり目標	2,361	2,335	2,491	2,633	2,587	2,504	2,526	2,588	2,561	2,589	2,608	2,569

※評価

総軽油使用量は64,380ℓとなり、前年対比121%の増加。
 処理量当たりの軽油使用量は3,289ℓで目標対比128%となった。
 26期は能登の震災で発生した災害廃棄物処理の支援もあり、収集運搬量の変化に対して遠方(能登方面)の引き取り件数が増加したことで、軽油使用量及び原単位の悪化に大きく影響したものと考えられる。

産業廃棄物排出量の削減

I 処理量あたりの廃棄物排出量の取組内容と目標設定

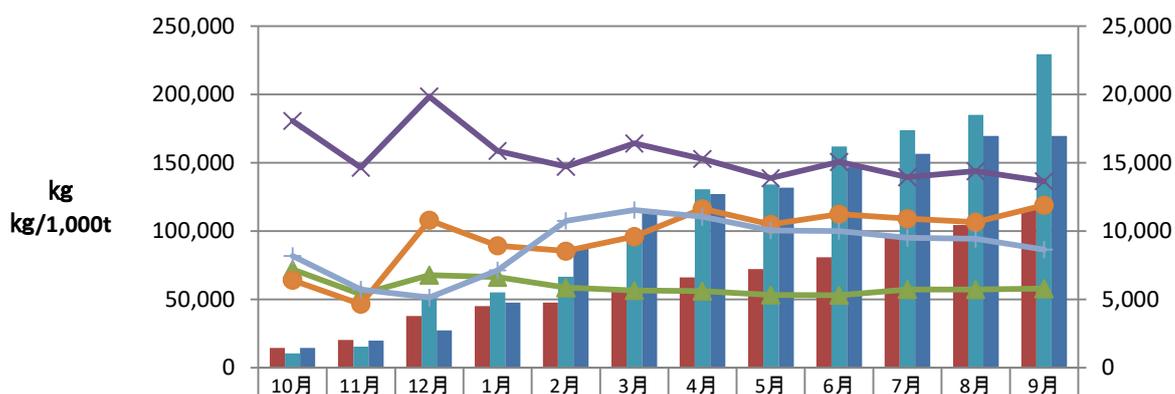
活動計画	計画内容	目標
分類別選別の徹底	選別処理の徹底	処理量あたりの廃棄物排出量を13,653kg/千t以下に抑える
マニフェスト管理の徹底	毎月の数値管理	毎月の正確な入力と分類・数値の把握

活動結果一覧

目標項目	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 目標	26期 実績	目標対比
処理量あたりの廃棄物排出量	kg / 千t	12,228	5,791	11,904	13,653	8,658	63.4%

目標項目	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 実績	前期対比
処理量	t	19,723	19,937	19,273	19,574	101.6%
廃棄物排出量	kg	241,167	115,460	229,427	169,470	73.9%

産業廃棄物排出量と処理量あたりの産業廃棄物排出量の推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
24期排出量累計 kg	14,400	20,340	37,990	45,240	47,680	55,820	66,020	72,150	80,870	96,520	104,520	115,460
25期排出量累計 kg	10,410	15,280	53,820	55,050	66,400	92,130	130,597	134,227	161,887	173,907	185,057	229,427
26期排出量累計 kg	14,460	20,020	27,420	47,590	87,430	113,530	127,040	131,710	146,750	156,520	169,470	169,470
24期処理量あたりの排出量 kg/千t	7,204	5,375	6,777	6,623	5,865	5,669	5,608	5,331	5,304	5,738	5,728	5,791
25期処理量あたりの排出量 kg/千t	6,406	4,642	10,798	8,945	8,531	9,600	11,643	10,490	11,246	10,910	10,644	11,904
26期処理量あたりの排出量 kg/千t	8,195	5,718	5,142	7,142	10,752	11,554	11,036	10,051	10,003	9,506	9,446	8,658
26期処理量あたりの目標	18,080	14,638	19,852	15,889	14,724	16,432	15,295	13,886	15,076	13,938	14,380	13,653

※評価

処理量当たりの廃棄物排出量は8,658kg/千tで目標対比63.4%となった。廃棄物自体の引き取り量の減少もあるが、スクラップ品質の良いものの仕入及び、各取り組みを継続してきた効果が出ており、取組当初より低減傾向を維持できていると考えられる。

使用水量の削減

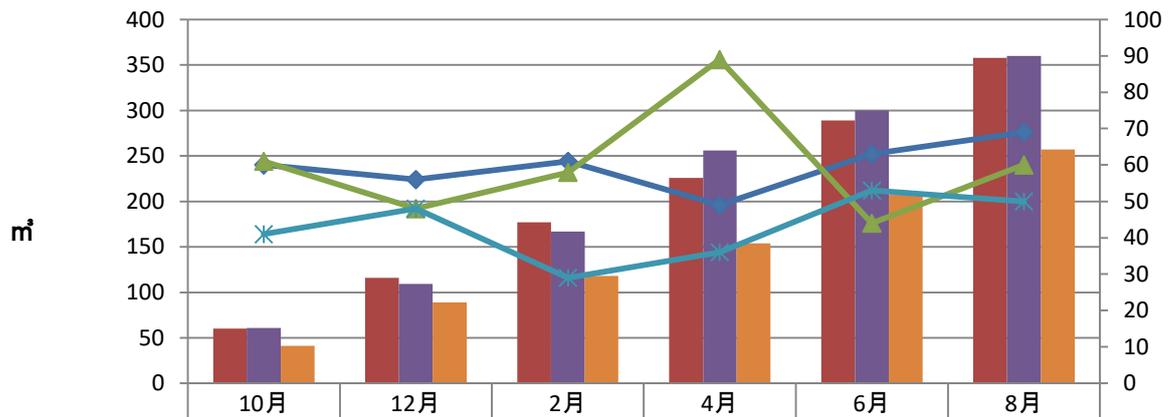
I 使用水量の削減の取組内容と目標設定

活動計画	計画内容	目標
使用水量の把握	水道量の数値集計・集埃車による散水量の削減	水道使用量の削減

活動結果一覧

目標項目	単位	23期 実績	24期 実績	25期 実績	26期 目標	26期 実績	目標対比
年間の使用水量600m ³ 以下	m ³	403	358	360	638	257	40.3%

上水道使用量の推移



	10月	12月	2月	4月	6月	8月
24期使用量累計 m ³	60	116	177	226	289	358
25期使用量累計 m ³	61	109	167	256	300	360
26期使用量累計 m ³	41	89	118	154	207	257
24期実績 m ³	60	56	61	49	63	69
25期実績 m ³	61	48	58	89	44	60
26期実績 m ³	41	48	29	36	53	50

※評価

水使用量は257m³となり、前年対比71.4%、目標対比40.3%となった。

水の使用は手洗いが多いが、社員へ節水の啓蒙を行うと共に、油汚れが落ちやすい手洗い洗剤の変更で、使用量を大きく減らせたものとする。

油水処理適正化

I 油水処理適正化の取組内容と目標設定

活動計画	計画内容	目標
分離槽・側溝の点検	分離槽・側溝の清掃を年1回行う 側溝に異物が無いか巡回する	地域住民への環境被害をゼロにする

評価

油水分離槽の定期巡回を行い、油流出等の無いように努めた。
油水分離槽の清掃を側溝の清掃と合わせて行ったが、点検も同時に行え効率的に作業を行うことができた。次期も継続して維持管理を行う。

騒音・振動の低減

I 騒音・振動の低減の取組内容と目標設定

活動計画	計画内容	目標
定期測定による現状把握	定期的に測定を行う	基準値以下
騒音・振動の低減化	ギヤ箱への母材投入は最低限の高さで投入する。 重機、ショベルはなるべく低速で作業する。	基準値以下

活動結果一覧

	単位	基準値	最低値	最高値	結果
騒音検査値	d B(A)	65以下	58	64	基準値内
振動検査値	d B	65以下	40	46	基準値内

騒音レベル	都市計画法の準工業地域	騒音規制法	第3種区域
振動レベル	都市計画法の準工業地域	振動規制法	第2種区域(1)

評価

前期は騒音値が基準値を超過する結果となったが、原因と対策について社内ミーティングにて協議を行い、それを実行することで今回は基準値内に収めることができた。
次期も継続できるよう取り組んでいく。

7 環境関係法規の取りまとめ

法規制の名称	内容	
廃棄物処理法	産業廃棄物の委託管理	廃棄物の管理
建設リサイクル法	解体工事業管理	
建設廃棄物処理指針	産業廃棄物の処理、委託管理	
優良産廃処理業者制度運用マニュアル	産業廃棄物の適正管理	
石綿含有廃棄物等処理マニュアル	石綿含有廃棄物の適正処置	
フロン排出抑制法	フロン類の回収	所有機器のフロン漏洩点検
浄化槽法	点検	
消防法	少量危険物の取扱	火気の使用
環境公害防止法	届出、点検	騒音、振動値測定

8 法規等順守の方法

上記記載の各種規制及び法律については社員全員が遵守する。

その他、各種規制及び法律の改正事項等については、内閣府のホームページを閲覧し下記の方法で全社員に通達し遵守する。環境関連法規の法改正等については、富山県生活環境部環境政策課、富山市環境整備課及び（社）富山県産業資源循環協会等の単独、あるいは協賛による法改正に伴う講習会に環境管理責任者が受講し、全社員に通達する。尚、通達文書等の場合には、全内容を全社員が回覧し遵守する。

環境関係法規の取りまとめの修正は、必要のつど責任者が行なうものとする。

9 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

過去5年間、行政、お客様、近隣住民の皆様からのご指摘、訴訟等は一切なし。また、順守評価の結果、法違反もなし。

10 環境上の緊急事態への想定結果及びその対応策

想定される緊急事態	油の流出
緊急事態の発生原因	引き取りした荷物からの油の流出

緊急事態の内容

想定される環境への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・水質汚染 ・土壌汚染
緊急事態の予防策	<ul style="list-style-type: none"> ・荷扱い時における安全作業の順守 ・(油漏れが想定される)荷の状態・構造確認の徹底
緊急事態の対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・荷の油漏れ箇所の特定 ・周囲の安全を確認した後、流出防止堤を設置し、油吸着マット及びおが粉による油の吸着を行う ・取り切れない油分に対し、中和剤等用いて中和 ・分離槽に油吸着マットを設置
緊急事態の準備品	<ul style="list-style-type: none"> ・油吸着マット ・土のう ・おが粉 ・中和剤、中性洗剤
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・可能なものは顧客に対して油抜きを要請 ・油の存在が確実なものについては荷の構造確認と安全作業を徹底

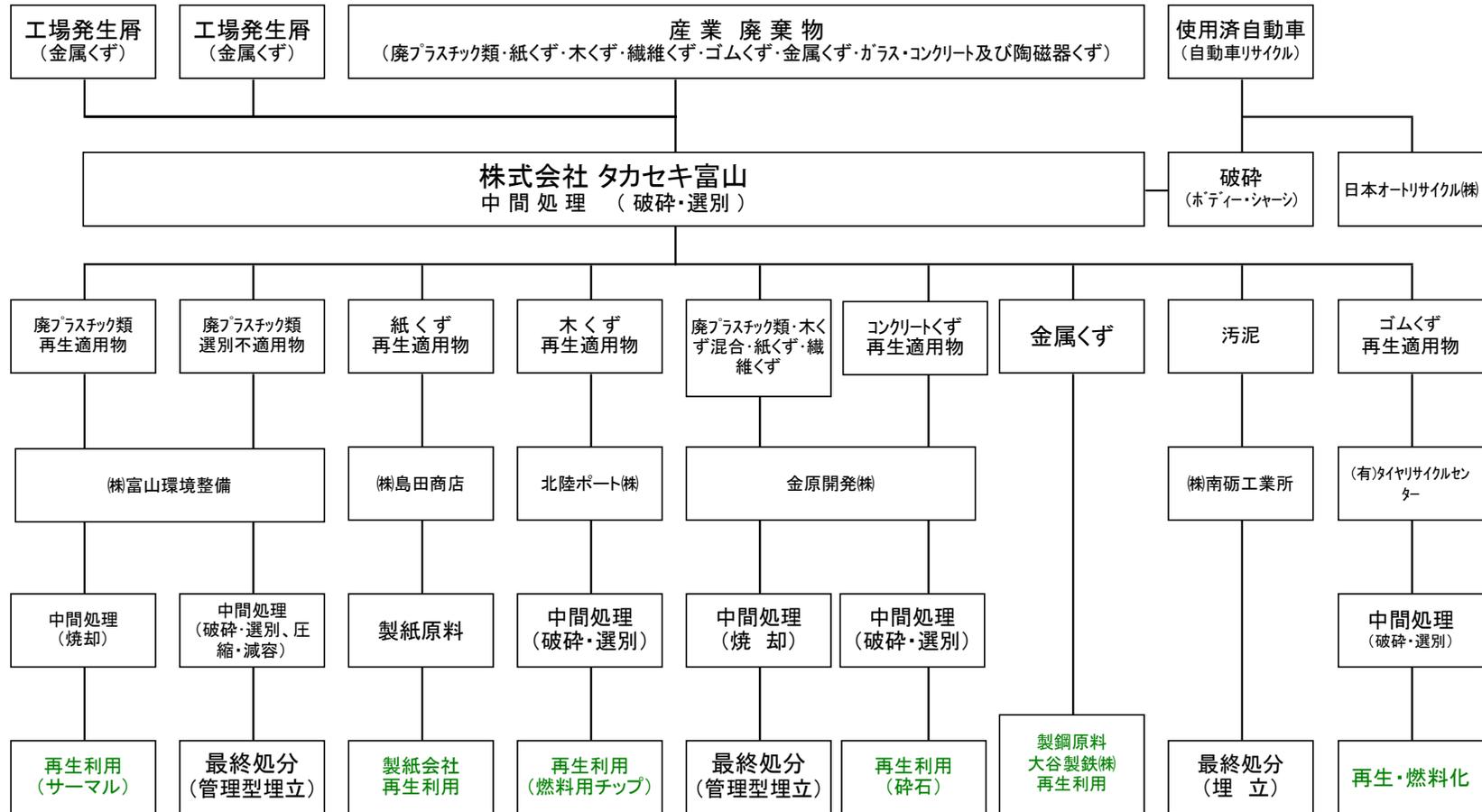
令和6年7月26日

承認	作成
釣谷	長谷
環境管理責任者	環境事務局

改訂の必要性

有	無し
	○

11.産業廃棄物フロー図（中間処理から最終処分まで）



作成日 令和5年9月1日 作成者 若林

株式会社 タカセキ富山 富山県射水市鷺塚216番地
 TEL 0766-55-3111
 FAX 0755-55-3115

代表者による評価・見直しの記録		検印	検印	作成
見直し実施者	代表取締役社長 釣谷誠二	釣谷		長谷
見直し実施日	令和6年11月29日			
確認・評価した資料				
文書	確認			確認
環境方針	✓	環境への負荷の自己チェック		✓
環境目標	✓	環境への取組の自己チェック		✓
環境活動計画	✓	環境関連法規制等の順守状況確認		✓
環境関連法規等のまとめ	✓	外部からの苦情・情報の記録		✓
実施体制	✓	環境上の緊急事態の訓練記録		✓
緊急事態対応手順	✓	環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況と結果		✓
環境活動レポート	✓	不適合是正・予防処置報告書		✓
取組状況全体の評価				
システムが有効に運用されているか(要求事項を満足しているか)			<input checked="" type="radio"/> 適	不適
取組が適切に行われているか			<input checked="" type="radio"/> 適	不適
見直し必要性				
環境方針	<input checked="" type="radio"/> あり	なし	実施体制	あり <input checked="" type="radio"/> なし
環境目標	<input checked="" type="radio"/> あり	なし	その他	あり <input checked="" type="radio"/> なし
環境活動計画	<input checked="" type="radio"/> あり	なし		
○見直しの具体的内容				
前期までグリーン購入適合品の購入を活動項目として掲げていたが、実態は購入時の制約や価格面で課題が大きく、目標との乖離が顕著であることから今期より活動に盛り込まないこととした。				
○評価				
近年、環境取組みの目標及び成果は前年と同様に維持できるよう努めてきたが、				
引き取り先の変化による燃料使用量の増加や燃費の変化、また気候の変化による空調や各設備の使用エネルギーの増加もあり、取組が大変厳しいものとなっている。				
現状分析のもと課題抽出と対策立案を行う中で、6月に空調機を省エネ型に更新したが、				
今後は照明器具や生産設備の更新も検討し、目標値を達成できるよう今後の活動を継続していく。				